

令和2年度 環境で地方を元気にする 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

キックオフミーティング 発表資料

活動団体名：特定非営利活動法人仕事人倶楽部

活動地域：北岩手9市町村（北岩手循環共生圏）
（久慈市、二戸市、葛巻町、普代村、
軽米町、野田村、九戸村、洋野町、一戸町）

活動におけるテーマ・キャッチコピー

北岩手9市町村が連携し大都市圏との交流まで視野に入れた「北岩手循環共生圏」の構築

地域循環共生圏の実現により目指す地域の姿

食彩王国・悠久のまほろば・自然の恵み 北岩手

—豊かな森里川海で北岩手循環共生圏の形成—



つなげよう、
支えよう
森里川海

全国・世界に発信！！



横浜市
Yokohama

人材 / 情報 / 技術
資金

都市の暮らし



横浜市
人口:375万人
面積:437km²

横浜市との連携や交流による地域経済活性化に向けた取組
農山漁村と大都市との連携のモデルケースとして具体的取組
横浜市、郡山市、会津若松市、横浜町との広域圏交流連携の推進

食材 / 自然「森・里・川・海」 / 知恵
再生可能エネルギー



地域循環共生圏の実現により目指す地域の姿

ビジョン

食彩王国・悠久のまほろば・自然の恵み 北岩手

—豊かな森里川海で北岩手循環共生圏の形成—



成果

◆観光客の増加

◆収入の増加

人材・情報・技術
資金

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



●7/30～8/2 北岩手展 in 横浜市役所本庁舎ロビー



地域循環共生圏の実現により目指す地域の姿

北岩手循環共生圏(豊かな森里川海・人・情報・技術交流)

里の資源

雜穀、山葡萄(ワイン)、畜産(チキン、福来豚、短角牛 etc)、酪農、各種農産物、甘茶...等



森の資源



森林、木炭、木質
バイオマス、白樺美林
キノコ、山菜、クル
ミ、漆...等



海の資源



サケ、ウニ、アワビ、ナマコ、
ホヤ、昆布、のだ塩・・・等



太陽光、陸上・洋上風力、小水力、木質バイオマス、畜産バイオマス、地中熱...等

再生可能エネルギー—資源

5

昨年度の取組の概要（仮説と実践、気づき）

当初予定していた取組

- 北岩手循環共生圏の構築
- Zero Carbon KITAIWATE宣言
- 北岩手循環共生圏結成式等の啓発イベントの開催
- 横浜市との再エネ連携に伴う連携連絡会議の実施
- 横浜市との再エネ電力の連携協定をベースに北岩手の豊富な地域資源を、横浜市をターゲットに循環させる。
- 地域資源を活用し、環境の視点を加味した事業化検討を行う。

実践の中での気づき

- 横浜市との連携により、売先やターゲットが明確になった。
- 地域の課題が、より明確になり地域のステークホルダーの考え方などが浮き彫りになった。
- 北岩手地域では、ステークホルダーを中心に様々な既に活動している部分があり、地域ブランドや地域の連携を通じて、更なる実現性が見えてきた。
- 様々な地域資源や事業化の芽がある中で、地域にそれを取りまとめる組織体が必要であることが分かった。

実際に行った取組

- 北岩手循環共生圏を正式結成する事によって、9自治体がまとまり、横浜市との連携が始まり、大都市圏と地方が一つの連携体となって活動できるようになった。
- 北岩手循環共生圏として、昨今の国際的な動きに合せ、2050年までに、二酸化炭素排出実質ゼロを掲げ、各自治体が取り組むようになった。
- 北岩手循環共生圏内における、様々なステークホルダーを集め、環境と言う視点から事業展開の可能性の高いものについて、「北岩手の未来を築く」とんがり者の会を開催した。

事業のタネ3つ

- 北岩手雑穀のブランドプロジェクト
完全無農薬で古来の製法による北岩手の雑穀を日本一のブランドに仕上げ、増産により、北岩手の原風景や環境保全に繋がる。
- 北岩手山ぶどう王国プロジェクト
日本一の山ぶどう産地であり、ワイナリー等でワインの製造も始まっている。これをメジャーにし、地域活性化を図ると共に、バイオマスの活用等の循環型社会の一部として検討してきたい。
- 日本一の白樺美林プロジェクト
白樺の樹液商品の地域で生産する事により、日本一の白樺美林の環境を保全しつつ、観光活用を図るなど地域活性化対策としたい。

昨年度の支援チーム派遣について

① 支援チーム派遣によって解決したかった課題

- 実際に動き始めている事業化項目としては、7項目あるが、それぞれの進捗や課題に応じたオーダーメイドのサポートを行う必要性があったのが課題であった。
- 事業の構想段階の物が多く、具体的な事業体の構築や資金調達も含め進めていくサポートが課題であった。
- ステークホルダーだけでは、事業主体になりにくい所で、各事業で一本柱となる企業や連携出来る企業を得ることが出来ないのが課題であった。

③ 支援チーム派遣の成果

- 北岩手は9自治体の様々なステークホルダーが存在する中で、北岩手を代表する地域資源や環境という側面から、地域資源を活用し地域経済の一助となる取り組みの整理を行い、7つの事業が動き始めた。
- 7つの事業の内、雑穀プロジェクト、白樺プロジェクト、山ぶどうプロジェクトについては、明確な目標が見えてきて、それに向かって進めるようになってきた。

② 支援チーム派遣を活用して取り組んだ内容

- 7事業の検討を始めた、地域のステークホルダーを集めた「とんがり者の会」と7事業のリーダーに対する「とんがり者リーダー会」を開催した。
- 北岩手の多様な地域資源による「森里川海」のそれぞれの地域資源の活用方法や地域の特性について派遣専門家に把握してもらい、事業化に向けたアドバイスを頂いた。

④ 積み残した課題や新たな課題

- 検討している7プロジェクトについて、まだ事業構想段階であり、課題や必要な専門家等は見えてきた。これを、事業として動かし始めが必要である。
- 昨年度末終了時から、コロナの影響で人の動きや経済状況が、現在とは大分変わってきているので、地域のステークホルダーの動きや状況についても再度把握する必要がある。
- 北岩手循環共生圏の再エネや、地域資源活用による地域活性化や地域経済循環の好転化を図るには、地域で総合的に関わりまとめる組織体を構築する必要がある。
- 一般住民及び事業所にはまだまだ北岩手循環共生圏についての浸していない。

今年度の取組と到達目標

今年度の取組

- 更なる、北岩手循環共生圏の取組や、理念や思想を北岩手の住民や事業者に対し、強くPRすると共に啓発を実施する。
- 7事業の中で、コロナ等の影響含め再度取組む内容やスケジュールの検討・精査を行う。
- 7事業を検討する「とんがり者の会」や「とんがり者リーダー会」を開催すると共に、各事業に必要な専門家と共に事業を具体的に進めていく。
- 北岩手循環共生圏に於いて、自治体の枠を超えて様々な事業の受け皿となる様な、地域商社や地域まちづくり会社（DMO）の様な法人組織体の形成を図る。

今年度の到達目標

- 地域循環共生圏を啓発するシンポジウム等のイベントの開催を図る。
（コロナの影響もあるため、3密を避ける。リモート配信する等の配慮を検討する。）
- とんがり者の会（地域のステークホルダー）と共に、昨年検討を始めた7事業について、さらに検討を行うと共に進捗の進んだ3事業については、専門家を投入し事業化に向けた事業主体の構築を目標に実施する。
- 来年度の夏ごろをめどに、地域の北岩手循環共生圏に関わる事業等の窓口となる、地域まちづくり会社（DMO）等の組織を構築し、法人化を目標に実施する。

今年度の年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定			◆協定締結（活動予算執行開始） ◆キックオフミーティング				現地意見交換会		◆中間報告書提出期限 活動団体成果報告書提出		◆成果報告会	
環境ローカル ビジネスの事業化 に向けた取組			7事業の事業化に向けたそれぞれの検討									
					◆とんがり者の会	◆とんがり者リーダー会		◆とんがり者の会		とんがり者リーダー会◆ ◆とんがり者の会		
地域の受け皿となる 地域まちづくり 会社（DMO）の 構築			組織体構築に向けての検討									
			組織体の概略決定◆									
			R3夏季を目途に法人化◆									
北岩手循環共生圏 の取組					◆横浜市との連携連絡会			◆北岩手循環共生圏シンポジウム				

新規に取り組む団体へ一言！

- 本事業が展開される前から、仕事人倶楽部は北岩手地域の現地入り込み様々な活動を行ってきたが故に、北岩手全体を何とか取りまとめることができた。専門家の派遣にしても様々な事業化を実施するにしても活動団体と共に専門家も地域に深く入り込むことが必要であると思います。

こんなことを助けて欲しい！

- 各地域での地域まちづくり会社等の構築に関するスキームや資金調達の仕組みなどの情報について情報提供を頂けると助かります。
- 地域新電力や自治体電力の設立、電力確保（特定卸供給契約やTPO/PPA等）の具体的な初期投資等も含め事業化するために必要な情報を提供頂けると助かります。